



■ 勿来高等学校長 木村 敏明

日も短くなり、めっきり寒くなりました。生徒の登下校風景を見ていると、セーターやマフラー、コート類を多く見かけるようになり、服装からも師走の到来を実感します。

今年の3年生の就職・進学活動については、ほとんどの生徒が第1志望の会社や学校から内定をいただくことができ、進路活動は全体的に順調です。日常生活においてあまり好景気の実感はありませんが、市内企業の求人業況を見ていると景気の回復具合も良好な様子が伺えます。今回の勿来高だよりは11月に参加した2つの外部行事と校内で行われた2つの体験談活動について感想を書かせていただきます。

一つ目は、11月2日に開催された『平成30年度いわき地区高P連研修第1委員会研修会』です。ここではキャリアコンサルタントの今泉理絵氏による講演会と、福島大学の小沢教授のコーディネートで地元企業3社の社長さんによるパネルディスカッションが行われました。講演の演題は『生徒の就職に親ができること』。現代はAIやIT革命、外国人労働力などの問題もあり、先の見えない時代はあるが、最後にこの世の中で生き残れるのは、この時代が要請した者か、時々の変化に対応した者のみであるから、仕事に就くことを人生のゴールにするのではなく、自分が自分らしく生きるためにどう自分をプロデュースするかが大切であり、

人生100年時代、立ち止まらず柔軟にどん欲に学び続け、自分の道を切り開いてほしいとおっしゃっていました。パネルディスカッションでは、現在県が推進している『イノベーションコースト構想』について、関係する企業の取り組みや、人材育成の考え方、いわき地区における今後の方向性などが述べられました。社長さん達それぞれが、家族を含めた社員を、会社を、いわき市を、それぞれの業界を大切にしている様子が伺え感激したのと同時に、いわきの将来像を考える貴重な時間をいただくことができました。

二つ目は、11月30日に行われた(株)クレハの『CSR地域対話集会』です。企業が地域に根ざすために本来の生産事業以外にたくさんの地元貢献事業に取り組んでいることがわかりました。循環型社会の実現のためには、資源の有効活用、製品開発、環境保全、情報公開がいかに大切であるか理解できました。最後は工場敷地内をバスで見学させていただきました。滅多に見ることのできない楽しく貴重な時間でした。

校内では、11月30日に『インターンシップ・看護体験報告会』、12月7日に『進学就職合格体験談』がそれぞれ行われました。インターンシップ参加者や内定を決めた3年生が、1・2年生を前に堂々と体験談を話しました。準備

には多くの時間を費やすこと、まじめに取り組んだことは結果に反映すること、自分のことだけでなく勿来高校や後輩のことも考えて行動したことなど、取り組みにおける大切なことが述べられました。会場からもいくつか質問が出されましたが、発表者はしっかり回答していました。

勿来高校の未来も明るくなってきたな、と思える2ヶ月でした。

■くぼた校祭ボランティア

10月27日（土）に、同じ校舎で学ぶ、いわき支援学校くぼた校の「くぼた校祭」ボランティアに参加しました。

音楽部のステージ発表賛助出演、茶道部の茶体験コーナーの他、楽器運び、駐車場整理、販売補助など、約30名の生徒が参加し、くぼた校の生徒さんと一緒にくぼた校祭を盛り上げることができました。



■勿来高校・くぼた校合同授業（体育）

11月27日（火）に、勿来高校とくぼた校が体育の授業を合同で行いました。種目は、昨年度も実施したボッチャ競技を行いました。ボッチャ競技とは、パラリンピックの種目の一つで、白の目標球に赤、青のボールをいかに近づ

けるかを競う競技です。

今回の授業を実施する前に、ボッチャ競技日本代表チームのコーチである村上光輝氏に講演していただきました。生徒は、講演をとおしてパラリンピック競技への理解を深めていました。

授業では、勿来高校の1年生とくぼた校の1、2年生が合同で8チームを編成し、トーナメント方式で団体戦を行いました。試合は白熱し、大変盛り上がりました。また、両校の生徒がお互いの健闘をたたえ合う姿も見られました。



■朝のあいさつ運動

12月12日（水）に、生徒会役員による朝のあいさつ運動が行われました。今回の活動は、生徒会役員の発案により行われました。生徒のあいさつする姿は清々しいものでした。

